

軽米町百人委員会第2回高齢者いきいき部会議事録

○開催日時：平成30年9月25日（火）午後6時30分～午後7時40分

○開催場所：軽米町役場3階会議室

○出席者

委員：15名中10名出席

事務局：町民生活課 川島、福田

健康福祉課 坂下、健康ふれあいセンター 大西

総務課 吉岡、梅木、日山

○開会

町民生活課長

1 部会長あいさつ

（部会長）実質的な話し合いは今回で最終回としたい。次回は発表のための取りまとめが中心になると思う。一番大事なのは、部会の話し合いだけで終わるのではなく、地域に帰ってから今回取りまとめたことをいかに活動に生かすかだ。前回と重複してもいいので、意見やアイデアを出してほしい。部会のテーマにこだわらず、広い視野で話し合いたい。なお、全体会での発表は副部会長にお願いしたい。

2 協議事項

（事務局）それでは前回までの内容を振り返ってみます。（別紙により前回の内容を確認）

（委員1）65歳以上の割合が40%近くになり、自分で運転できなくなる人も増えてくるだろう。集まりに参加する手段、交通機関でいい方法はないだろうか。

経済的にも高齢者は年金のみになり、ボランティア活動するにしても苦しい時代が来る。しかし、退職しても現役の時と同じような消費生活の行動が残っていて、子どもたちが心配する。ほしいものはどんどん買うため、行政に支援を求めるときがくるような気がする。保健推進員もいつまでできるか、不安だ。自分のことが自分でできるうちはいいか、後継者となる若い力がどれくらいあるか、不安だし、バトンタッチも心配だ。

（委員2）若い年代は子育てで地域活動に手が回らないのが現状だろう。高齢者は家に引き込みりがちだが、周りが応援してあげることが大切だ。40代の方と70代の方は意見が違うが、各地区の総会などでお互いの意見を言って、話し合うことが大切だ。

（委員3）軽米病院の院長先生を講師に招いての勉強会は好評だった。上野場地区などで高齢者が4、5人単位で散歩しながら集まっているのはほほえましい。少人数での集まりが健康にも生きがいづくりにもよい。消防団員の募集や町民運動会の参加者募集などで区長さんは大変苦労している。

（部会長）地域活動するには地区に2、3人のリーダーが必要だ。リーダーを育てるのが難しい。

（委員3）周囲をうまく笑わせてムードを作り、ほがらかに進めるリーダーがほしいものだ。

（委員2）区長さんや保健推進員、各種委員さんは人集めに苦労している。メディアとの

- かかわりが関係しているのではないか。歩きスマホなどに代表されるように人間とのかかわりが薄くなっている。考え方の違いが出ている。
- (委員3) 敬老会は数え 80 歳以上が対象だ。高齢者は 65 歳以上。いろいろな区分の仕方があるものだ。
- (委員4) 高齢者と呼ばれるのは正直、面白くない。
- (委員3) 熟年という呼び方はどうか。ところで老人クラブの運動会は活発ですか。
- (委員4) 運動会などに参加する方は生き生きしている。活発だ。いろんな会合に参加しない人が多いのが問題だ。ただ、こういう時代をつくったのも我々だ。ボランティア活動で作ったものを持ち寄り、販売するとかそのようなシステムを作ることが大切だ。ボランティア組織を作る、あるいは家庭菜園をうまく活用するなどアイデアを出し合いたい。
- (委員5) 朝市みたいに収穫した作物を持ち寄ればよい。
- (委員4) その市場で自分たちが売ったものを寄付すればよい。バザーみたいに。中高生の修学旅行での地元産品のバザーは好評だ。いきいき部会でプロジェクトとして開催してみるのも一つの案だ。
- (委員2) 小軽米地区の商店も一つだけになってしまった。空き店舗の一角を借りて、農産物を持ち寄り、安く販売するのも方法だ。各集落にそのような施設ができれば高齢者の励みになる。
- (委員1) 通りに人がいないのがさびしい。
- (委員2) 親も子供を自動車ですぐ外のもっと楽しい施設に連れて行く傾向にある。
- (委員3) コンビニにはたくさん人がいるのになあ。
- (委員4) いきいき部会として何か行事をやるのはどうか。実験的に老人福祉センターで交流会を開催するとか。毎月、市日みたいに集まる。
- (委員2) かつてのちびっこ広場みたいな感じで集まるのがよい。一戸町では福祉作業所で農産物を持ち寄り、売っていた。
- (委員4) 自分たちで企画し、イベント開催まで完結したいものだ。行政のみに頼るのではなく、ボランティア活動のできる体制づくりです。
- (委員3) 町民運動会で農産物などを出品するのはどうだろうか。
- (委員2) そう、いきいき部会として何か手作りのものを出品するのがいい。
- (委員4) 何か、それぞれ一品ずつ持ち寄ろう。何かやっているぞと、アクションをみせるのがよい。
- (委員3) いわゆる「はじき」のものでいいと思う。
- (委員2) 百人委員会は 5 つの部会があるので、呼びかければ実現可能ではないか。存在感を示せる。
- (委員5) お金が入れば収入支出が出てくる。この部会は直接、活動するのではなく活動できることを考え、提案する会だ。たとえば町民運動会や老人クラブの運動に参加したくても参加できない方にきっかけを作るのが大切だ。「高齢者いきいき運動会」でもよいだろう。町民運動会では参加できない種目も多く、見直しが必要ではないか。みんなが出来るような種目を考え、健康体操も取り入れ、そのうえで農産物などを持ち寄るのがよいだろう。
- (委員4) 町民運動会は個人でも参加できる種目を取り入れたらどうか。
- (委員6) 町民運動会では 60 歳以上の方は参加できない種目があった。玉入れや綱引き

など育成会優先の場合が多い。70歳以上の種目は少ない。老人クラブの運動会をいきいき部会との共催ではどうか。老人クラブの運動会の会員以外にも参加を呼び掛けてはどうか。

- (委員4) 老人クラブの運動会は会員以外にも呼びかけているが、なかなか普及しない。参加者に巡回バスを出してはどうか。バザーもやったほうがよい。
- (委員5) 共催事業として老人クラブ運動会に個人でも参加できる運動会にしてはどうか。組織にとらわれずに呼びかけた方がよい。
- (事務局) そうですね、老人クラブに入れない方も参加できるようにとか、送迎バスを出してほしいとか、そういう具体的なことを出していただければ全体会の提言に盛り込みやすいのでは、と思います。
- (委員5) 健康づくりを取り入れた運動会でバザーもある、収益は寄付する。私たちは活動部隊ではないけれど、どんどん提案はできると思います。
- (委員4) たとえば交通安全協会の旗立てにしても人がいなくて困っている。安協は完全なボランティア団体だ。ボランティア活動の大切さを痛感する。
- (事務局) 高齢者運転免許証自主返納事業はこの高齢者いきいき部会から出されたアイデアだと認識しています。そのような事業も大切ですが、なるべく免許証を返さなくてもいいように認知機能を高める取り組みを応援してほしい、という声もあるようですので、どんどん提案してください。
- (委員4) 立ち止まってはいけない。高齢者いきいき部会も活動を継続するために動き続けよう。
- (委員7) どうしたら活動に参加してもらえるかだ。ふれあい共食事業でも耳が遠くなってくると話が分からない、と参加者が少なくなる傾向にある。とても悩んでいる。
- (委員1) やはりリーダーの育成だ。50代で引っ張ってくれる人が必要だ。
- (委員7) 家庭の主婦の方に引き継ぎたいけどうまくいかない。50代の方に声掛けしているのだが。40代の方はグループ活動が嫌いなのかなあ。
- (委員6) 活発だった方も耳が遠くなると自然に活動から遠ざかっていく傾向にあり、残念だ。
- (委員8) たとえば血圧の高い方を集めてカードに目標を決めて書いてもらい、達成したらごほうびをあげるのもいい方法ではないか。糖尿病で体操活動から遠ざかっている方などに有効ではないか。
- (委員9) 年齢ごとに興味があるテーマ課題が異なる。関心のありそうな共通するテーマを見つけて呼びかけないと集まりにくい。いかに関心あるテーマの活動イベントにするのか、企画する人の力が試されるのではないか。認知症を遅らせる対策のテーマの講演会だったら、高齢者は参加するだろう。でも、若い人は興味が薄いだろう。
- (委員1) 経済力も大切だ。体調が悪くなると共食事業の200円さえ出せない人もいるのが現状だ。
- (委員2) まずは老人福祉センターを借りてデイサービスの日でも部会として活動してアピールしてはどうか。
- (委員4) 「社協まつり」を共催でやってみてはどうか。農産物や衣料品なども交換会を行う。スタッフの問題もあろうが、10人くらいのスタッフのうち、いきいき部

会から何人か出せればうまく運営できるのでは。

(委員2) かつては「ちびっこまつり」で老人福祉センターがにぎわった時期もあった。

(部会長) まとめですが、活動にあたっての交通手段の確保が大切です。高齢者同士で同乗させる、行政で確保する、誘い合うなどの方法があると思います。

研修会では各年代で関心あるテーマが異なるので、共通のテーマを企画することがカギです。また、運動会や芸能発表会でも社協と老人クラブが知恵を出し合い、会員でなくても参加できるように間口を広げることが重要です。

行政区内の活動でも少ない人数の単位の活動を進めることです。班単位の活動に近いイメージですが、まとまりがあり、進めやすい気がします。「社協まつり」のアイデアなど、今できることと将来できることとに分類して提言したいと思います。

皆さんの頭の中にはそのような構想があると思いますので、次回はそれを提言として最終的にまとめたいと思いますのでよろしくお願いします。

(事務局) それでは次回は10月22日の週あたりに開催したいと思います。今、部会長さんから話があったとおり、最終的に全体会で発表する提言に沿った形で進めていけたらと思います。本日はご苦労様でした。(午後7時40分終了)